

| テーマ |

地域社会の発展のために



CONTENTS

[ View of This issue ]

- 01 三重大大学のベクトル  
● 理事・副学長(統括・研究担当) | 武田保雄

[ 特集 / 対談 ]

- 02 地域社会の発展のために  
● 三重交通グループホールディングス株式会社 代表取締役社長 | 岡本直之  
学長 | 内田淳正  
司会 | 副学長 | 児玉克哉

[ RESEARCH FRONT ]

- 08 日本人とは何か、  
歴史を通じて考える。  
● 人文学部教授 | 山田雄司
- 10 難治性白血病の発生機構を解明し、  
分子標的療法の開発を目指す。  
● 大学院医学系研究科教授 | 野坂哲哉
- 12 ナノスケール回路内の電子を操り  
新たなコンピュータの可能性をさぐる。  
● 大学院工学研究科准教授 | 内海裕洋
- 14 生産プラントや社会インフラ施設の  
安全・安心を確保する設備診断技術。  
● 大学院生物資源学研究科教授 | 陳山 鵬
- 16 ゲノム情報を活用した先端研究で、  
食料生産に寄与する植物の改良に挑む。  
● 生命科学研究支援センター教授 | 小林一成

[ CLOSE-UP Interview ]

- 18 スポーツ科学の研究成果を  
競技現場でいかせる人材を育てていきたい。  
● 教育学部教授 | 杉田正明

[ 連載 ] CHRONICLE OF MIE VOL.9

- 20 【文学編】藩校有造館督学(とくがく)、齋藤拙堂。  
● 人文学部准教授 | 吉丸雄哉
- 22 【美術編】月櫻「赤壁図」  
● 教育学部教授 | 山口泰弘

[ 三重大大学の目指す社会連携① ]

- 24 三重大学社会連携研究センター研究展開支援拠点  
産学官連携による  
イノベーション創出の場
- 25 TOPICS
- 28 2011年9月～2012年8月 三重大学の主な出来事



三重大大学のベクトル

理事・副学長(統括・研究担当)  
武田保雄

3.11の災害に際して大学は何ら社会に貢献をしていないとの批判をよく受けました。日本が未曾有の危機にある大変なときに、人々を勇気づける力強いメッセージを発信できないのなら、一体何のためにやってきた学問なのだ、ということです。大学は決して何もしなかったわけではなく、個別には多様な活動を行いました。しかし、外から大学を眺めたとき、このような印象を持たれる方が多いのは確かです。

大学は構成員の多様性と主体性が尊重されてきた場所です。悪く言えば、大きいベクトルを持っている人は多いのにその方向がまちまちなので合成するとほとんどゼロになってしまう所です。大学のガバナンスはなっていないと強く批判される所以です。

大学の使命と言えば昔は教育と研究でした。立派な研究を行えば学生も自然と教育されるし、その結果はいずれ社会にも還元されると本当に信じている教員が20世紀には沢山いました。大学間にあまり格差のないときはそれでもよかったです。大学の重点化に伴い有力大学と地方大学には構成員の努力だけではどうしようもない研究環境の差が生じました。三重大学のような地方大学では、地域との連携を深め「この地域になくてはならない大学だ」と地域の人から支持をいただくことが非常に重要となってきました。ようやく、教育や研究も、社会との関わりや地域との連携の度合いの強い分野に注力しようという意識が高まってきました。その甲斐あって、三重大学は地域圏大学として十分認められる実績を挙げつつあります。大学内の多数のベクトルが社会貢献にも有効な成分を持つ方向に揃ってきました。

「地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す」。これは三重大学が掲げる大目標です。「地域に根ざし」た社会貢献は進んできました。今後は「世界に誇れる」研究成果を多く挙げることです。研究と社会貢献の両方の成分を持ったベクトルにしなければ大学としての意味をなしません。独創的な研究成果を生み出すこと、これも大きな社会貢献であることを忘れてはなりません。

ただやすお  
理学博士  
専門分野は固体化学、  
特に電池材料の化学

